平成 26 年 7 月の解説（週間天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、梅雨前線が本州の南海上に停滞することが多くなりました。このため、北日本や東日本日本海側ではおおむね晴れました。一方、西日本や東日本太平洋側では曇りや雨となった日が多くなり、3 日は長崎県で局地的に大雨となりました。沖縄・奄美では、台風第 8 号の影響で大荒れの天気となり、沖縄県名護市名護で 8 日から 9 日にかけての総降水量が 457.5mm となるなど、沖縄本島地方では記録的な大雨となりました。また、台風の北上とともに北上した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけても局地的に大雨となり、長野県では土石流による人的被害が発生したほか、新潟県と山形県では床上・床下浸水等の住家被害が発生しました。

中旬は、11 日に台風第 8 号が関東の東で温帯低気圧に変わり、三陸沖を北東進しました。その後は日本の南で太平洋高気圧が次第に強まり、15 日頃からは梅雨前線が日本海沿岸に停滞しました。このため、東・西日本太平洋側や沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れる日が多く、東・西日本日本海側では梅雨前線の影響で曇りや雨となる日が多くなりました。また、19 日から 20 日にかけては、本州上空に強い寒気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東日本や西日本では局地的に猛烈な雨が降ったところがありました。

下旬は、旬のはじめは全国的に高気圧に覆われ、おおむね晴れましたが、23 日から 24 日にかけては梅雨前線が北日本を南下し、北日本では曇りや雨となったところが多くなりました。25 日から 26 日にかけては全国的に太平洋高気圧に覆われて気温が上がり、猛暑日となったところが多くなりました。27 日には台風第 10 号から変わった温帯低気圧が北日本を通過し、北海道を中心に大雨となりましたが、通過後は移動性高気圧に覆われて全国的に晴れました。沖縄・奄美では、22 日から 23 日にかけて台風第 10 号が先島諸島に接近し、八重山地方では大雨となりました。また 31 日には台風第 12 号が沖縄地方に接近し、沖縄・奄美や九州南部で大雨となりました。

月平均気温は、北日本でかなり高くなりました。月降水量は、沖縄・奄美で多くなった一方、東日本太平洋側では少なくなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多くなりました。

【7 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値 (注) に比べ 1 ポイント低い 65%でした。各地方の適中率は例年値に比べて、特に関東甲信で 10 ポイント高くなりましたが、4 地方で 6～9 ポイント低くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 2.5℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2℃小さい 1.5℃でした。各地方の予報誤差は、特に関東甲信で 0.6℃小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9 月の週間天気予報の利用にあたって】

太平洋高気圧に覆われる日が多い 8 月に比べて、9 月は低気圧や前線が日本付近を通過しやすくなります。低気圧や前線が通過した後は北からの冷たい空気が流れこむため、晴れても日中の気温は 8 月ほどには上がりにくく、夏から秋の気候へと次第に変化します。

また、晴れた日の夜は放射冷却現象により、内陸部を中心に最低気温が下がりやすくなります。このため、日中と夜の気温の差が大きくなります。週間天気予報では、向こう一週間の天気予報とともに最高気温と最低気温の予報も行っていますので、日毎の温度変化とともに、一日の間での気温差も確認して体調管理等の参考にして下さい。